

2020年12月9日

SAJ 競技本部 クロスカントリー委員会
新型コロナウイルス感染対策クロスカントリー競技ガイドライン Ver.1

はじめに

このガイドラインは、クロスカントリー競技会を安全に開催するために、『SAJ 競技会 新型コロナウイルス感染予防ガイドライン（第1版）』を基に、大会開催者（組織委員会・競技役員等）および参加者（選手・コーチ・保護者等）に守っていただきたい注意点を、特にクロスカントリー競技を対象に記したものです。一人一人が感染予防に留意し、クロスカントリー競技会を安全かつ確実に実施できるようご協力をお願いいたします。

※必ず、事前に SAJ 競技会ガイドライン (<http://www.ski-japan.or.jp/general/35824/>) をご参照いただきますようお願いいたします。なお、本ガイドラインと SAJ 競技会ガイドラインの内容に齟齬があった場合は、SAJ 競技会ガイドラインが優先されるものとします。

※自治体及びスキー場等で管理する施設に関しては、施設等が定めるガイドラインに従うこととします。必ず遵守ください。

1. 大会開催者と SAJ クロスカントリー委員会の連携

①大会組織委員会は、「SAJ 競技会新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」、および当クロスカントリー競技会ガイドラインをベースにし、より詳細なガイドラインを定めてもよい。

②大会組織委員会は、クロスカントリー委員会との連絡係を決める。

③大会終了後3日以内に、大会参加者及び競技役員に体調不良者が出た場合は、クロスカントリー委員会に報告する。

④大会終了後2週間以内に、大会参加者及び競技役員に新型コロナウイルスの感染が判明した場合は、SAJ 事務局と共に、クロスカントリー委員会にも報告する。

⑤SAJ クロスカントリー委員会担当者

委員長：安村 英彦

連絡先：携帯 090-2275-6887 Eメール：yasumura19670103@icloud.com

2. チームキャプテンミーティング (TCM)

①可能な限り、オンラインでの実施を推奨する。

②対面で開催する場合は、次のことを励行する：

- ・ 出入口に手指消毒薬を設置する。
- ・ 入口と出口を分ける。
- ・ 会場内では、常時マスクを着用する。
- ・ 参加者は筆記用具を持参する。
- ・ 窓や扉を2箇所以上開放し、換気に配慮する。
- ・ ダブルドローは、固定された役員が行う。
- ・ 椅子は前後1m以上の間隔を置いて設置する
- ・ ジュリーと対面する場合は、アクリル板等を設置するか、十分な距離を取る。
- ・ マイクを使用する場合は、消毒を徹底する。
- ・ 参加者の会話は最小限にする

③コントロール

- ・ TCMの実施方法にそって、できるだけ人の手を介さないコントロール方法をとる。

- ・SAJ 競技本部が定める自宅待機規程の日数に満たない海外からの帰国選手は、ジュリーの判断でドローから外す。

- ④ビブの配布については、配布エリアを設け、選手各自が受け取れるようにするなど、できるだけ人の手を介さない方法をとる。
- ⑤競技会へ参加する選手・コーチが来場した時に、出来るだけ検温を行うことが望ましい。（検温エリアの指定）また、スタート前の検温検査も必要とする。

3. スタートエリア

- ①常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ②ウォーミングアップの際は、十分な距離を保つことで、マスク等は外して良い。
- ③選手同士、コーチやサービススタッフ等とは1-2mの対人距離を取る。
- ④外したマスクや使ったティッシュペーパー等は、自分で管理し処理する。

4. スタートハウス

- ①スタートハウスに入る役員は最小限とし、必ず常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ②目からの感染防止のため、役員はフェイスシールドやゴーグル、サングラスを使用することが望ましい。
- ③スタートハウス内に入れる選手数は、1-2mの対人距離が取れる人数とする。
- ④スタートハウス内での、コーチの大きなかけ声は禁止する。

5. コース内・テストコース

- ①コース内は、ビブ番号等により選手毎の実施時間帯をずらすなどして、選手・コーチが1-2mの対人距離を取れるよう配慮する。
- ②常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ③選手同士、コーチやサービスマンとは1-2mの対人距離を取る。
- ④待機競技役員は、1-2mの対人距離を取る。
- ⑤long 競技の給水ポイントでは、1-2mの対人距離を取り、コップは使い捨てを使用し、使用したコップは、各チームでビニール袋を準備し終了後密封して処理する。
- ⑥タイムチェックを行うチームスタッフは、ノーコーチゾーン以外では、1-2mの対人距離をもって行う。

6. ゴールエリア

- ①公式フィニッシュエリアから出た選手は、1-2mの対人距離を取る。
- ②フィニッシュ直後で呼吸が荒いときは、対人距離を更に取り。
- ③ビブは選手個人が、準備した回収箱及び袋に投入する。
- ④ビブを扱う際は手袋を着用する。
- ⑤使用したビブは消毒もしくは洗濯をする。
- ⑥観戦者は常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ⑦飲食物を提供する場合は、手指消毒をした上で、使い捨て手袋を使用する。

7. 表彰式

- ①選手、授与者とも手袋を着用する。
- ②式典開始前に手指消毒を行い、握手やハグは行わない。

8. 競技役員

- ①当日の検温を実施し、37.5度以上の人、体調の悪い人は業務の参加を認めない。
- ②用具を共用した手袋で、目や鼻をこすらないように注意する。
- ③屋外待機場所においても、1m以上の対人距離を保つ。
- ④集団で作業する場合は、対人距離と作業者の呼吸の方向に注意する。
- ⑤作業で呼吸が荒くなった場合は、十分な対人距離を取る。
- ⑥弁当や飲み物を配布する場合は、手袋を着用する。
- ⑦無線機器は、1日の業務終了後消毒する。

9. ジュリールーム

- ①出入口に手指消毒薬を設置する。
- ②ジュリールーム使用の際は、30分に1回以上、数分間、部屋のすべての空気を外気と入れ換える。
- ③無線機器は、1日の業務終了後消毒する。

10. ゴール・タイミングハウス

- ①出入口に手指消毒薬を設置する。
- ②ゴールハウスに入る役員は最小限とし、必ず常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ③30分に1回以上、数分間、部屋のすべての空気を外気と入れ換える。
- ④机はできる限り並列にセットし、スタッフが向き合わないようにする。可能であれば、アクリル板等で衝立を設置する。
- ⑤可能であれば、アナウンスには別室を用意するか、パーテーションを設置するなどして専用の区画を設ける。
- ⑥筆記用具は役員が持参する。
- ⑦共有用品・備品は、1日の業務終了後消毒を行う。
- ⑧無線機器は、1日の業務終了後消毒を行う。
- ⑨室内での喫煙を禁止する。

11. 海外からの帰国後の参加

- ①選手・コーチは参加するレースの14日前までに帰国をしていること。
 - ・選手・コーチは外務省の指示に従い、14日間は公共交通機関を使用せず自宅待機を行うこと。帰国後14日以内の選手は、レースに参加することはできない。また、14日以内の公共交通機関を使つての移動も認められない。
 - ・なお、上記項目は、外務省の措置およびそれに伴うSAJ理事会の決定により、シーズン中に変更されることがある。また、商業目的の旅行等については、外務省が定める別の指示に従う。
- ②大会開催者は、項目①を最新情報に合わせて大会開催要項に明記する。
- ③出場レース30日前以内に海外より帰国した場合は、入国日をエントリフォームに記載する。